

京都精華大学 広報誌

木野通信

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

issue 64

特集

ソーシャルデザインの未来。



INTERVIEW 1
TSUGIの過去、現在、未来。

INTERVIEW 2
兼松佳宏さん、これからの
ソーシャルデザインについて
教えてください！

ROUND TABLE
世界の流れに抗う表現のために
— 続「シャルリーエブド襲撃事件を考える」座談会

REPORT
2014年度
卒業・修了制作展と
セイカウィーク2015を開催

CONTENTS

特集

ソーシャルデザインの未来。

- 4 TSUGIの過去、現在、未来。
- 8 兼松佳宏さん、これからの
ソーシャルデザインについて
教えてください！
- 12 ソーシャルグッドなプロダクト7選
- 14 世界の流れに抗う表現のために
—続「シャルリーエブド襲撃事件を考える」座談会
- 17 2014年度 卒業・修了制作展とセイカウィーク2015を開催

NEWS & Topics

- 18 大学ニュース
- 20 2015年度新任教職員および2014年度退職教職員のお知らせ
- 21 イベント紹介 サマースクール

精華生たちの今

- 22 活躍する卒業生
- 23 歩みはじめた在学生

「種まき」の年

学長 竹宮恵子

(マンガ学部ストーリーマンガコース教員/マンガ家)



新年度を迎え、私の学長生活も2年目に突入しました。改革に向けて大学全体の状況把握に努めた昨年度が「土壌検査」だとしたら、今年度は本格的に取り組みの準備を進める、「種」をまく年。それを現場に立つ教員のみなさんとともに、協働で行っていきたいというのが私の考えです。そこで今年度から、ここ数十年途絶えていた全学教授会を復活させ、定期的に各取り組みについてみなさんにお伝えし、理解を深めていただくことにしました。この機会を活かして大学をひとつにまとめ、全員参加の大学づくりをめざします。

では、どんな「種」をまこうとしているのか。私の専門分野であるストーリーマンガコースを例に紹介しましょう。同コースでは昨年、「機能マンガ」に特化した授業を開講しました。機能マンガとは、複雑な社会問題をマンガにすることによって、マンガに新たな社会的な機能をもたせるというもの。授業では、京都府医療企画課から府民にPRしたい医療問題をご提示いただき、そのなかから「危険ドラッグ」「在宅介護」にテーマを絞って、各19ページの冊子を作りました。とくに「在宅介護」は、高齢者の終末医療という非常に重く複雑なテーマで、これを簡潔にまとめるには、上手さよりも、確かな取材力と構成力が必要となってきます。それらを生み出すのは「知ってほしい」という意気込みです。たとえ絵が拙くとも、意気込みをもち続け、積み重ねた取材を確かな構成で表現すれば、多くの人に必要とされるマンガが生まれます。学生たちの「上手くなければプロになれない」という認識を改めさせるとともに、マンガで食べていく心構えと方法を伝えることがこの授業のねらいでもあり、授業を通して学生たちにはプロの気概が備わったことと思います。

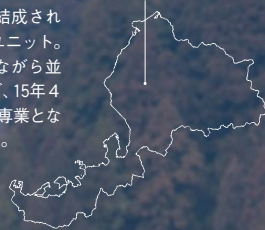
機能マンガは、社会が抱えるさまざまな問題をみんなで共有し、解決へ導いていくソーシャルデザインと相性のいいツールでもあります。このような、学生の未来を切り開くと同時に、社会をよりよくする可能性を秘めた学びの「種」は、全学部全コースにあるはず。それらを丹念に探し出し、力を合わせて植え付け育てていきたいと考えています。



TSUGI

FUKUI / SABAE

2013年、福井県鯖江市で結成されたデザイン+ものづくりユニット。それぞれ鯖江で仕事をしながら並行して活動が続けてきたが、15年4月から法人化して、2人が専業となる。現在のメンバーは6人。



TSUGIの過去、 現在、未来。

福井県鯖江市河和田。精華大生にとってはなじみのある地名なのではないでしょうか。2004年の福井豪雨をきっかけに、災害復興支援活動の一端としてはじまった「河和田アートキャンプ」は、今なお毎夏の恒例企画として続けられ、精華大生を中心に累計1300人を超える学生が参加しています。そんな「河和田アートキャンプ」をひとつのきっかけとして、鯖江へ移住を果たし、デザイン+ものづくりユニットとして活躍をはじめているTSUGI。彼らは鯖江でどんな未来を思い描いているのか。メンバーを代表して新山直広、新山悠、今川心平の3人に、TSUGI Labで話を伺ってきました。

はじまりとしての 河和田アートキャンプ

みなさんは現在、鯖江に移住して暮らしています。まずはその前段階となる「河和田アートキャンプ」のことから教えてください。

新山(新山直広) 最初は大学サークルっぽい印象があって、あまり好きじゃなかったかな。学生のころはもうちょっとキラキラしていたので(笑)。だけど、参加してみるとおもしろかったですね。僕が育ったのは、大阪のニュータウンなので、河和田とはかけ離れた環境なんです。だから、歩いているおっちゃんらがみんな職人さんだったりする河和田にとっても惹かれました。

——オーバーな表現ではなく、それほど職人さんが多い町なんですか？

新山 15年3月まで、僕は鯖江市の職員として商工関係の仕事を担当していたんですけど、鯖江市の就業人口のうち6人に1人は眼鏡産業に関わっているんですよ。加えて、河和田は越前漆器の町なので、その事業所の数もかなり多くて、そういうのも合わせると大げさな表現じゃない。本当にものづくりの町ですね。

なるほど。今川さんは1年生のころから「河和田アートキャンプ」に参加していたそうですね。

今川 4年生から参加した新山くんがちょっと特殊で、ほとんどの学生は1年で参加するんですね。それで

1年生のときは目の前の作業に追われてよくわからないうちに終わってしまったので、これ何のためにやっているんだっけ?と思って、2年目は企画メンバーに入って、いろいろプログラムを考えたりしてました。その後、いろいろあって、自分が何をしたいのかを考え込んだときに、自分の手でものが作りたいんだから、そうだと河和田に行こうと思ったんですね。そのときには、新山くんがもうアートキャンプの事務局として、河和田へ移住していました。

新山 僕は「河和田アートキャンプ」の事務局をしている、片木(孝治)先生の応用芸術研究所に就職をして、その初任地が河和田でした。最初は、河和田にいるスタッフは僕だけだったんですけど、そうこうしているうちに(今川) 心平が居候するようになって。今でこそキラキラしてますけど、そのころの心平は何考えてるのわからない、なかなかダメ人間な状態でした(笑)。

今川 ほんとに何もしたくなかった。全然違うんですね。

新山 そうです。彼はものづくりがしたくて、僕は場の仕組みが作りたくて。僕らがアートキャンプに関わっていた08年ごろって、「ソーシャルデザイン」という言葉もまだ全然知られてなかったんですけど、確実

にそっちの方向へ進んでいくだろうなという空気は感じていました。08年は、ちょうど日本の住宅着工戸数がピークだった年で、僕は大学で建築デザインを学びながら、建物を造るよりも、その使われ方、アクティビティを計画する方が大事なんじゃないかって思っていました。

——TSUGIのなかで唯一、悠さんは精華大生ではないですけど、河和田のことは知っていましたか？

悠 まったく知らなくて。福井県に足を踏み入れたことさえなかった(笑)。新山くんと結婚することになって、河和田との縁ができたという感じですね。

新山 河和田ってやっぱり全然遊ぶところがなくて、それで嫁さんが嫌がってしまって、新婚早々に危機を迎えたんです(笑)。じつは、それがTSUGIの結成にもつながるんですけど、河和田の現状を受け入れたうえで、自分らで遊ぶところを作って、仲間を増やそうよって。もちろん、僕らはまだ下っ端ですけど、10年後に産地の担い手になれるよう、その助走期間としてデザインから流通まで手がけて、産地に活気をもたらしたいということも考えています。

地域のため、自分たちのため

——自分たちにとっての遊び場やきっかけ作りとして、「TSUGI」が誕生したっていうのはわかる気がします。

MEMBER



寺田千夏
15年4月入社



新山悠
デザイナー



今川心平
眼鏡職人



榎原秀典
里山保全活動家



新山直広
代表/ディレクター



永富三基
木工職人

HISTORY

2014	2013	2012	2010	2009	2008
2月 「金継ワークショップ」第1回開催	12月 TSUGI Lab 改装完了 12月15日 「MONO TALK」第1回開催。ゲストはクラフトデザイナーの佐藤延弘さん(PULL+PUSH PRODUCTS)	9月21-22日 「うるしの里」中道アート2013にTSUGI CAFE出店。地域のテイルウエアと野菜を使ったセルピルドカフェ 6月 TSUGI発足 新山悠が結婚を機に鯖江に移住 新山直広が鯖江に移住、河和田アートキャンプの事務局に 榎原秀典が鯖江に移住、ヤマト工業に入社 永富三基が鯖江に移住、ヤマト工業に入社	今川心平が鯖江に移住、谷口眼鏡に入社	新山直広が応用芸術研究所に入社、鯖江に移住 「河和田アートキャンプ2009」で今川心平が代表を務める	「河和田アートキャンプ2008」で新山直広が学生代表、今川心平が副代表を務める



※1
TSUGI Lab
錦古里漆器店の店舗部分を自分たちで改装。敷地の奥には漆器工房が現在も稼働中。



※2
Sur
眼鏡の素材、アセテートを使ったアクセサリーブランド。現在、全国6カ所の店舗で販売。

※3
meet the makers
「わざわざ来てもらえる、魅力ある産地を目指して」をテーマに、2015年11月に開催を予定。TSUGIが企画、事務局を務める。

TSUGIといえば、1ターンの移住で地域活性化の救世主！といった感じでメディアに取り上げられているような印象もありましたから。

新山 そのままのつもりじゃないんですよ(笑)。「TSUGIでは地域の課題に寄り添った活動ではありませんけど、僕らがプロジェクトやイベントを起こしたりすることで、結果的に地域がよくなればいい。だって、はじめるのは簡単ですけど、継続していくことが大変で、そのためには楽しくやれる環境を作ることが大事ですから。」

——TSUGIとしての活動が、まず拠点作りからはじまっているのもそういう理由からなんですね。

新山 そう、形から入るタイプなので(笑)、まずはアジトが必要だろうと。半年くらいかけて、「TSUGI Lab(※1)の改装をしました。それぞれ平日は仕事をしているので、週末に集まって、床を剥がして、壁を塗って。心平は眼鏡職人ですけど、特に磨きにはうるさいんで、2カ月はここの床を磨き続けてましたね。

SEは編集的に生まれたプロダクトですね。TSUGIというチームがあったから、形になったものだと思うので、今後もこういうことはやっていきたいと考えています。

今川 SEの素材は会社に山積みになっていたサンプルがきっかけです。加工する設備も会社にしかないんで、週末だけ使わせてもらっているんです。新山 心平が勤めている会社の社長もそうですし、まわりの人らがTSUGIの活動をすごく応援してくれるのも、河和田のいいところなんです。ただ、SEに関しては急激に卸先が増えてきたので生産が間に合わなくて。

今川 専念できるほどの売上では全然ないのに、あつという間に疲弊しちゃいましたね。

悠 仕事としてはじめてないからうまくいった部分もあるんだけど、利益がいくらでとかいった面がまだまだきちんと考えられていませんでした。——メンバーの週末だけの作業は大変でしょう。

新山 いろいろそういうことが増えてきたので、4月からはJCEGを法人化して、専念することにしました。SEの生産もメーカーさんをお願いしていくつもり。

TSUGI U

——着実に活動領域を広げてきたように見えるTSUGIですが、これが

今川 そういうことが好きなんですよ(笑)。他の人がやって粗が見えちゃうと気になってしまう。悠 拠点を作りはじめると、やっぱり河和田の暮らしが楽しくなってきた、何やってるの？って地元の人も入ってきてくれるし、地域のことがだんだん見えてきました。

——悠さんは河和田との縁がゼロのところからはじまっているから、地域に溶け込むことがまず出発点。悠 そうなんです。私も大阪の新興住宅地の出身なので、地域にどう入っていくかというのがまったくわからなくて。TSUGIがその大きなきっかけになりました。

新山 TSUGIとしての1年目のテーマも仲間作りだったので、拠点を作って、トークやワークショップのイベントを開いてということを通じていくと、知り合いが一気に増えんです。鯖江に移住して働いているけど、まわりとの交流がないって人が実はたくさんいました。みんな悶々としてたんですね。

今川 鯖江中のさみしがりが集まってきた(笑)。

新山 僕らも友だちがいなかったから(笑)。だから、2年目はあまりイベントも積極的にはしてないんです。ちょっと電話をかけて、井戸端会議的にばつと集まったりすることができるようになったので、イベントはがんばらなくてもいいやって。今日の夜も、僕らと同年くらいで

らのことはどう考えていますか。

新山 グラフィックデザインの仕事と、SEのように商品を企画して販売していくことがメインになると思います。ブランディングということおこがましいですけど、いくつかの会社と契約して、長期的に関わっていくことも決まっています。

——最初にお話いただいた、自分たちの遊び場作りという面はだんだん控えていく感じでしょうか。

新山 いえ、それももちろん考えますよ。このラボの数軒隣りに使われなくなった眼鏡工場があって、そこをカルチャーの拠点にしたいなと思ってるんです。理想はアトリエと飲食店とショップとシェアハウスなんですけど、資金繰りのめどがまだついてなくて……。今のところは、「PARK」と呼んでいます。

今川 PARKは「TSUGIだけじゃなくと、この町で出会ったいろんな仲間と夏からずっと片付けてきて、ようやく入れるようにはなってきたんですけど、ここからどうするか。今は、東京から移り住んできた、もと音楽事務所を運営されたというロックンロールな方がその建物に住まれています。

——そんなロックな人が近くにいるのも楽しいですね。

新山 もうひとつ、この秋に河和田で「meet the makers」(※3)というイベントをしようと企画しています。地方のしょぼいアンテナショップで

徳島の土勝町に移住した人たちが来て、ここでトークイベントをされますけど、それも僕らが企画しているんじゃないんで、イベントを通してこの場所を知った人が企画しているんです。そんな風にして、「TSUGIとして地元のプロジェクトに関わる機会も増えて、自分たちの経験値も上がってきたので、2年目は実際にものづくりをしたいなということで、ブランド「SE」(※2)を立ち上げました。

——眼鏡の素材、アセテートを使ったアクセサリーですね。これは今川さんが作られてるんでしょうか。

今川 製造の部分は僕がやってますが、デザインや組み立ては悠さんです。普段、会社では眼鏡しか作れないし、それは大好きなことですけど、自由なもののづくりをしてみたいという気持ちもやっぱりあって、そんなときに、悠さんと話していたら、SEのアイデアが出てきたので、じゃあやろうかって。

悠 私はデザインの勉強も何もしてないんですけど、消費地で育ってきたので、産地とのギャップというのが、これ欲しい！って言えるものがないなと感じていて、それで自分の感覚でやってみよう。ばつと声をかけて、すぐに手を動かしてくれた人が隣にいるからこそできたことなんです。

新山 産地の技術と素材、消費者の感覚を活かしてという意味では、在庫処分みたいなのがすごく嫌で、わざわざ町まで来てもらうだけの価値があるものづくりをしてるんだから、それぞれの現場で適正価格で売れるようなイベントをしたいんです。ちよどここのまわりで、今改装をしているアトリエやショップもあるの、河和田の町を巡ってもらうような仕掛け作りを考えています。

——昔ながらの工場もあれば、今っぽいショップもあって、個人で活動をしている作家もいる。想像以上に、河和田という町は幅広いものづくりの集まった場所ですね。

新山 農作物を作るのに適さない環境だから、ものづくりが発達したということもありますけど、ひと昔前は、日本にいる漆掻きの職人さんの約半数がこの町の人だったそうなんですけど、漆の樹液を探るには東北の方まで行かなきゃいけないので、そのときにこのあたりで作ってる刃物や和紙やらを行商しながら行って、また帰ってくる時には東北の文化や技術が持ち込まれた。そうやって、時代に合わせていろんなものづくりを取り入れてきた町なんですよ。だから、変に伝統つてことに固執してないのが河和田のおもしろさでもありますね。

——町の成り立ちや今の状況をお聞きしていると、単にもものづくりの町という表現におさまらないような河和田の個性が見えてきて、とても可能性を感じます。

新山 そうなんです。いろんなピースがそろっているんで、それをつないでいくのが「TSUGI」の役割なんじゃないかな。

今川 やっぱ僕自身は、良くも悪くものづくりにしか興味がないんですけど、それでもこのままではいかんとは思っています。「TSUGIとしての活動が、将来のことを考えるきっかけになってますし、今はこうやって仲間と一緒にやれることが自分にとっては一番楽しいですね。悠 それがソーシャルデザインかと言われるらピンとこないけど、自分らが楽しんでやるのが結果的に地域につながるのであれば、理想的だし、そこに未来があるかな。



TSUGIが拠点にしているTSUGI Labから徒歩10分圏内に、工房やショップが点在。たとえば「hacoa」は大阪駅のLUCUA 1100にも出店した木製デザイン雑貨の店。丸物木地を活かした日用品を製作する「ろくろ舎」は、TSUGIがブランディングを担当。

2015	2014
3月 鈴木晴奈が本業に専念のため脱退 新山直広が鯖江市役所を退職	3月30日 「MONO TALK」第2回開催。ゲストはメガネデザイナーの青山嘉道さん(FACTOR900)、塩路智大さん(Micedraw Tokyo)
4月 TSUGIを法人化して「TSUGI Inc.(合同会社ツギ)」。デザインスタジオとして本格スタート。新山直広は「TSUGI」に専念 京都精華大学の寺田千夏がTSUGI入社	4月11日 「福井OBRY#1」で実行委員として運営に参加
	5月10・11日 愛知県蒲郡で開催されるイベント「森道市場2014」に出店
	5月15日 「ぶくいデザイン・インタークラウンジ」開催。ゲストはアートディレクターの田子學さん
	6月15・21日 「UKU FOOD CARRAN」かわたぐらしの晚餐部」を福井新聞と共同で開催
	9月20・21日 「河和田くらし巡り」で「TSUGI CA FE」を出店
	10月11・12日 鯖江のめがねミュージアムで開催された「めがねフェス」に出店
	12月 オリジナルのアクセサリーブランド「SE」のウェブサイト公開
	12月〜2月 「DEPARTMENT」による「POST OFFICE」に福井県代表として出店。「SE」初の店舗販売



兼松佳宏さん、 これからの ソーシャルデザインについて 教えてください！

兼松佳宏
1979年生まれ。WebデザイナーとしてNPO支援に関わりながら、「デザインは世界を変えられる？」をテーマに、世界中のデザイナーへのインタビューを連載。2006年に独立して、Webマガジン「greenz.jp」の立ち上げに関わる。13年、東京から鹿児島へ移住。15年、京都へ。著書に『ソーシャルデザイン』『日本をソーシャルデザインする』（いずれも朝日出版社）。

2016年度から京都精華大学人文学部に特任教員として就任が決まっている兼松佳宏。ソーシャルデザインのためのヒントを発信するWebマガジン「greenz.jp」の編集長として、国内外の事例を扱いながら、自身でもさまざまな形でソーシャルデザインの現場に関わり、情報発信を行っています。これからのソーシャルデザインのこと、そして、大学ではどんな構想を描いているのか。その考えを伺ってきました。

大学で ソーシャルデザイン!?

まずは率直な疑問なんですが、ソーシャルデザインというのは教えることができるものなのでしょうか。兼松 ソーシャルデザインの基本は、さまざまな「専門性」に「社会とつながる」という視点を掛け算することだと考えているので、具体的な方法論だけでなく、「あり方」を教えることを大切にしたいと思っています。たとえば、自分で課題を発見する力。クリエイターの仕事の多くは、すでにクライアントが課題を設定していて、「何を考えるべきか」という問いが明確だったりしますが、いろんな現場のほころびを解決しようとするソーシャルデザインの領域では、そうとは限りません。状況も刻々と変化するので、今の取り組みは本当にやるべきことなのか、時には立ち止まって振り返ることも必要になります。また、長く続いているプロジェクトに共通しているのは、根底にある問題意識が「自分事」から始まっているということ。社会問題と言われても他人事のように感じる方も多いと思うので、まずは「何とかしなくては!」というパーソナルな切実さを大事にしてほしいですね。手法が、思いか、どちらかが先行してしまっているような事例も少なくなさそうです。そのバランスと

いうことですね。

兼松 そうなんです。先行研究もたくさんあるので、少しずつ紹介していきたいですね。たとえば、MITのオットー・シャーマー博士が提唱する「U理論」はとても参考になります。これは課題を目の前にしていきなり解決策を考えはじめるのではなく、アルファベットのUの字のように、丁寧に歩みを進めていこうというものです。対話を重ねたり、何もしない時間をつくったりしながら、Uの底で、自分のソース(源)とつながり、そこで見えたビジョンをもとにアイデアを形にしていける。U理論の本は600ページくらいの大著なんです(笑)。講義ではそんなエッセンスを取り入れながら、その人にしかできない「マイプロジェクト」を一緒に見つけていきたいと思っています。

——日本では「ソーシャルデザイン」という言葉がひとり歩きしている面もあるので、そうした理論的な研究を掘り下げることは大学でこそできることだと思います。兼松さんが「空海とソーシャルデザイン」(※1)というテーマで書かれているWeb連載も拝見しました。

兼松 ありがとうございます。空海

はね、僕のまわりで一時、みんなが空海を読みはじめるというブームがあっただけです。仲間が5人集まっただけで、「空海の本、読んだ?やばいよね」って。空海の何に惹かれているのかは、連載の文章を読んだらわかるんですが、ちょうど高山開創1200年で盛り上がりつつあるように、空海って千年以上も前の人で、まさに歴史的人物ですよ。でも、その考え方がソーシャルデザインという新たなキーワードと呼ぶ部分がたくさんある。そんなふうなソーシャルデザインの目線でさまざまな物事を見ていくことは、とても価値があると思っています。とくに精華大は美術系の学部と人文系の学部の両方をもっているのがとてもユニークで、そこに可能性を感じています。

——どういうことでしょうか。兼松 美術系の才能が具体的な形をつくることだとすれば、人文系の才能は言葉を駆使して物語をつくることだと思えます。歴史に本質を見

出して、プロジェクトに深みを与えたり、コンセプトを明確にして、関わる人たちの一体感やモチベーションを高めた。ソーシャルデザインを広げたいためには共感の力が欠かせませんが、人文系のソーシャルインベーターは、その土壌をつくることができると思っています。

——まさに人文系ソーシャルデザインですね。その先に、これからのソーシャルデザイン像も見えてきそうです。

兼松 「空海とソーシャルデザイン」という思索もまだ道半ばですが、そのひとつの表現になるといいたくありません。中国に留学していた空海が、真言密教の正式な後継者として京都に戻ってきたのが36歳のときなんです。たまたま僕も今年36歳で、空海の命日にあたる4月21日に鹿児島から京都へ引越してきました。——ものすごくシンクロしていますね!

兼松 さらに、日本で最初の庶民学校といわれる「綜芸種智院」を京都に開くなど、空海は教育にも熱い思いをもっていて、いろんなご縁を勝手に感じています(笑)。僕にとってはたまたま空海でしたが、『ソーシャルデザイン・アトラス』を書かれたSugiyamaの山崎亮さんは、コミュニティデザイナーとしての二宮尊徳に注目していますし、『ソーシヤ

ルデザインの教科書』の著者でもある京都造形大のムラタチアキさんは「伊勢神宮こそ究極のソーシャルデザイン」だと言っています。すでに当たり前になっていることの多くは、ソーシャルデザインの積み重ねだと思ったりワクワクしますよね。ぜひ『木野通信』で「ソーシャルデザインの目で見えたら」という連載、やりませんか(笑)?

人文系ソーシャル デザインの可能性

——そこまで意図していたわけではないのですが、「ソーシャルデザインの未来」というテーマは、兼松さんが精華大で試みようとしてされていることにも直結していますね。

兼松 そうですね。さまざまな美大を中心に、ソーシャルデザインによるまちづくりプロジェクトが動きはじめていますし、総合政策やビジネス系の大学でも、社会起業家を育てるような取り組みが増えているように感じています。ただ、人文×ソーシャルデザインという事例は、それほどあるわけではない。その道なき道を切り拓いていくことに、とても興味があるんです。その一例として、僕が今もとても一番お会いしてみたい人物が、デイブ・エガース(※2)というアメリカの作家さんです。

——どういう方でしょうか。兼松 映画にもなった有名な絵本『かいじゅうたちのいるところ』の



「何をしたいかかわらないけれど、ソーシャルデザインをしたい！」というのは、ちよつと違うような気がしています。

大学内でもいかにソーシャルデザインがあり得るかということですね。それにしても、1年間の仕込みというのは意気込みを感じます。兼松 いくつか京都に住めたらと漠然と思っていたのですが、20代ではなく、30代半ばで来れたことは大きい

——ですが、兼松さんが大学で教鞭をとられると、ソーシャルデザインがやりたいという学生もたくさん集まってきたそうです。

兼松 それは仕方がない部分もありますが、丁寧にメツタ切りしたいと思います(笑)。ソーシャルデザインはあくまで考え方なので、「〇〇を実現するためにソーシャルデザインを活用する」というのが正しい順番。シンブルに言えば、「モヤモヤ×得意技×FUN」という図式なので、モヤモヤと得意技を共有することからはじめられるといいですね。

——大学への着任は来年にも関わらず、ひと足早く京都へ越されてきたと聞きました。

兼松 「人文系ソーシャルデザイン」というキーワードに希望を感じている一方で、新しいからこそ不安もあります。だからこそ1年かけて準備をしていきたいと思っています。精華大にはさまざまな専門領域をもった方がたくさんいるので、その専門性をつなぎあわせて良い事例をつくっていききたいですね。まずは先生方をランチにお誘いして、仲良くなりたいなと思っています。

——大学内でもいかにソーシャルデザインがあり得るかということですね。それにしても、1年間の仕込みというのは意気込みを感じます。

兼松 いくつか京都に住めたらと漠然と思っていたのですが、20代ではなく、30代半ばで来れたことは大きい

——ですが、兼松さんが大学で教鞭をとられると、ソーシャルデザインがやりたいという学生もたくさん集まってきたそうです。

兼松 それは仕方がない部分もありますが、丁寧にメツタ切りしたいと思います(笑)。ソーシャルデザインはあくまで考え方なので、「〇〇を実現するためにソーシャルデザインを活用する」というのが正しい順番。シンブルに言えば、「モヤモヤ×得意技×FUN」という図式なので、モヤモヤと得意技を共有することからはじめられるといいですね。

——大学への着任は来年にも関わらず、ひと足早く京都へ越されてきたと聞きました。

兼松 「人文系ソーシャルデザイン」というキーワードに希望を感じている一方で、新しいからこそ不安もあります。だからこそ1年かけて準備をしていきたいと思っています。精華大にはさまざまな専門領域をもった方がたくさんいるので、その専門性をつなぎあわせて良い事例をつくっていききたいですね。まずは先生方をランチにお誘いして、仲良くなりたいなと思っています。

——大学内でもいかにソーシャルデザインがあり得るかということですね。それにしても、1年間の仕込みというのは意気込みを感じます。

兼松 いくつか京都に住めたらと漠然と思っていたのですが、20代ではなく、30代半ばで来れたことは大きい

小説版を書くなど、小説家としても活躍しているのですが、『マクスウィニーズ』という文芸誌の出版編集も行っています。『マクスウィニーズ』は、エディトリアルデザイン的にも注目されていて、コレクターズアイテムになっているほど。そのディブさんが02年に立ち上げたのが「826National」という、創造的な文章の書き方を子どもたちに教える非営利団体で、08年には「EDPrize」という賞を受賞しています。現在、サンフランシスコやニューヨークなど7つの都市で展開しているのですが、表向きは海賊ショップやロボット工場になっていて、その奥にある教室で、子どもたちがコスプレしながら物を書いている。さらにそこで誕生した優れた作品は、『マクスウィニーズ』に掲載されることもあり、モチベーションのひとつになっている。こうした取り組みを、まずは「人文系ソーシャルイノベーター」と新たにラベリングして、世に問うてみたいなど。

——日本ではそうしたソーシャルデザインの事例はあまり見られない状況でしょうか。

兼松 福島での除染活動を進めている「ごしごし福島基金」を展開しているコピーライターの並河進さんなど、すでにたくさんいらっしゃいます。その胎動を「人文系」という切り口で眺めてみたいんです。たとえば、ライターという仕事のあり方も

Webマガジンの編集長をしている僕にとっては大きなテーマで。雑誌の黄金時代では、ライターは憧れの仕事のひとつだったかもしれませんが、バイラルメディアの時代には買い叩かれてしまったり、「誰にでもできる仕事」と勘違いされたりしていますよね。その状況を少し危惧していて、人文系の才能が生み出している社会的価値を、一度棚卸しする必要があるので。

——そういえば、グリーンズの記事では原稿を書いたライターさんの名前が必ず記名になっています。

兼松 はい。ライターさんファーストというのは、僕たちのフィロソフィなんです。こうして仕事で関わらせていただいているグリーンズのライターさんたちこそ、まさに人文系ソーシャルイノベーターのフロンティアだと言えますね。編集長として、一つひとつの記事を通じて、その可能性を掘り下げている感覚です。僕が思い描いているのは、近所に必ずあるパン屋さんと同じように、まさに頼れる編集者やライターさんがいること。そこを起点として、まちを楽しくするさまざまな企みが生まれていくといいなあと。

——そんな人文系の輝かしい未来像、なかなか最近では聞かれませんか。

兼松 最近は人文系の学部が縮小されていく動きもあるようなので、ある意味、人文系の逆襲です(笑)。じつは僕もフランス文学科出身で、

大学で勉強してきたことを仕事にどういかすべきなのか、本気で悩みましたし。結局、僕の場合はWebデザイナーの道に進み、十数年経ってもう一度人文学部に戻ってきたわけですが、そんな働き方の選択肢をみんなで見つけていけるといいですね。本場に今回、デザイン学部でもポピュラーカルチャー学部でもなく、人文学部で呼んでいたのはうれしかったです。

——ソーシャルデザインの未来だけでなく、人文学の未来のような話になってきました(笑)。グリーンズでも学校を運営されましたね。

兼松 僕は編集学校の先生をしています。自分の手でエコハウスをDIYしたり、スモールビジネスの起業を目指したり、グリーンズ読者の興味に合わせてテーマはさまざまですが、記事を読んだ後の、次のアクションを実感できるような場にしたと思っています。最近では、お母さんたちが子ども連れで午前中に集まって、「ママのためのソーシャルデザインを考える」クラスも盛り上がりつつあります。

——教えるということに魅力があるんでしょうか。

兼松 先日の入学式とで、「大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所である」というパンフレットをもらいましたが、まさにそれですね。Webマガジンの醍醐味として、記事を読んだ人の人生が変わっていく

意味があると思います。たとえば今年の4月から「ソーシャル・イノベーション・クラスター構想」という新たな試みが、門川市長の肝いりではじまっています。そこにも深く関わらせていただく予定です。他にも、今年から来年にかけて、知り合いのお店が続々と京都にオープン予定だったり、空海の後押しではありませんが、いろいろなご縁が重なってきているのを実感していますね。

——「826National」のような場所も京都に作れたらいいですね。

兼松 はい、じつは真剣に考えているんです。妻も物語作家をしているので、自宅をそういう場所にして、いつか夫婦でそんなことができたらと。ちなみに826という名前はサンフランシスコのバレンシア通り826番地ではじまったことに由来していて、すべての立地が826番地なんです。京都で素敵な826番地があったら教えてほしいです(笑)。

——兼松さんと京都、京都精華大学でこれからのいろんなことがはじまりそうですね。楽しみにしています。

※1 兼松さんにによるWeb連載「空海とソーシャルデザイン」は、Webサナー「DOT PLACE」で読むことができます。→<http://dotplace.jp/>

※2 デイブ・エガーズによるTEDのプレゼンテーション「Wish:ある学校」は、TEDのアーカイブで日本語字幕で視聴できます。→<http://www.ted.com/talks/>

兼松佳宏さんによる「これからのソーシャルデザイン」を考えるための4冊

『大宇宙に生きる - 空海』 松長有慶 中公文庫



京都にも縁のある空海の思考とソーシャルデザインには、驚くほどの共通性があります。そんな空海を知るためのおすすめ入門書がこちらです。たとえば「顕業は塵を払い、真言は庫を開く」という一節。見た目を美しくするだけではなく、奥にある宝を見つけることが大切である。それは普段の仕事でも心がけるようにしています。

『何も共有していない者たちの共同体』 アルフォンソ・リンギス 洛北出版



見知らぬだれかが目の前にいて、たとえ何も共有してなくても、いのちのちとして共鳴を感じることがある。「生きることは共鳴することである」という言葉が、僕の深層でいつも響いてます。モノやコトのシェアが何かと叫ばれる時代ですが、機能的な交換よりもっと深い“ご縁”のようなものに、耳を傾けていきたいですね。

『集合知の力、衆愚の罨』 アラン・プリスキ、他 英治出版



“ひとつ”であることを知り、「既にある答え」に歩み寄る。何かについて話をしているとき、思いもよらない画期的なアイデアが“降りてくる”ことがあります。そんなミラクルは、心を開いたり、「知らないこと」を受け入れたり、意外とシンプルな心構えによって生み出される。そんな示唆に富むエピソードにあふれた1冊です。

『人間の土地』 サン=テグジュペリ 新潮文庫



『星の王子さま』のサン=テグジュペリによる約80年前の旅行記。たまたま汽車の中で目にした労働者の虚ろな姿を見て「虐殺されたモーツァルト」と表現していますが、それは現代にも通じるような気もします。どうすればだれもが秘めている可能性を開いていけるのか。彼の思いを引き継ぎながら、模索していきたいと思います。



⑤ 棚田米 MERRY RICE

一般社団法人上山集楽

若い移住者と地元による地域おこしは、マーケティング戦略やパッケージデザインが評価され、限界集落再生のお手本と言われる。



棚田をはじめて見たとき、日本人はこんな山奥の急斜面にまで田んぼを作っていたのかという感慨と、その美しい風景に立ちつくしたのを覚えています。棚田には、日本人のもつ根気強さや忍耐のようなものが込められている気がするのです。(米本)



⑦ ゴミ置き場をアートにするプロジェクト

GARBAGE BAG ART WORK/MAQ inc.

ゴミ問題を遊ぼう！が合言葉。把手を結ぶとウサギの形状になる「ゴミは楽しく持って帰ろうよプロジェクト」など。



朝、ゴミを出すときに、知らないご近所さんでも挨拶を交わします。もし行政指定のゴミ袋もこのようであれば、すでに出してあるゴミ袋に対してこう置こうかなど、ゴミを介してご近所さんをつなげるハッピーな光景が生まれるように思えます。そんな第一歩を作りだせるプロダクトです。(米本)



④ Liv:ra ミツバチブラ

株式会社HighLogic

京都在住のデザイナー小森優美さんによるインナーウェア。オーガニックコットン100%、天然染料で身体にやさしい。

プロダクトデザイン学科では毎年、ワコールとの産学連携を行っています。膨大なデータの蓄積と人間科学的な見知などから生み出される企業の商品がある一方、地球と人の皮膚をつなぐサスティナブルな考え方を貫くLiv:raの商品に、インディーズとして成しうる魅力を感じます。(米本)



⑥ ベルトトート

KISSACO(キッサコ)

デザイナー兼かばん職人の岡本由梨さんが、素材選びから縫製まで手掛ける。売上の一部をベトナム農村部の支援に役立てている。

リサイクルは資源の有効活用ではあるのですが、生産側にとってひとつのマテリアル(原材料)としか見られていないようなものもあります。このバックのように、コーヒー豆を運搬する役目を終え、今度は人の荷物を運搬するというモノに生まれ変わった姿を見ると微笑ましくなります。(米本)



[選者]

米本昌史

デザイン学部ライフクリエイションコース教員。内藤廣建築設計事務所、島根県立女子短期大学講師を経て現職。masashiyonemoto主宰。House As Furniture展、LIVING&DESIGN展など。



① OCICA 鹿角のドリームキャッチャーアクセサリー

一般社団法人つむぎや

漁村に暮らすお母さんたちによる手づくりアクセサリー。震災後、仮設住宅で暮らす人たちに取入をもたらした。



鹿の角と漁網という、宮城県牡鹿半島の生活のなかで使われてきた素材は、そこに暮らす人びとの身体であり記憶を表しています。それが、地元のお母さん方の手によって夢が叶うシンボル「ドリームキャッチャー」として生まれ変わったというストーリーを秘めているのです。(米本)



③ こども楽膳

合同会社楽膳

福島県会津塗の伝統工芸士、障がい者支援のNPO、デザイナーらによる共同プロジェクトが生んだ現代漆器。

ユニバーサルデザイン(UD)という言葉が一般的になって久しいですが、UDは使用するうえでの弱者を生まないのが基本。この商品は子どもや握力の弱い方が持ちやすいことを謳っていますが、それはすべての人にとって持ちやすいことでもある。まさしく伝統とUDの結晶ではないでしょうか。(米本)

ソーシャルグッドなプロダクト7選

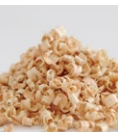
アイデアと行動力で、新たな暮らしや考え方を創る。ソーシャルグッドなプロダクト。デザイン学部教員の米本昌史が7つの商品を厳選しました。その愛らしい見た目は裏腹に、社会を豊かにする視点が満載です。



② フィトンの寝具・枕

有限会社榊工業

ウレタンなどの石油製品が中心の寝具を間伐材の木材チップで商品化。チップは詰め替えが可能で、廃棄のさいは肥料になる。



もう10年以上前の話ですが、林業に従事されている方と話す機会がありました。とにかく間伐材が大量に余っていると嘆いていたのを思い出します。ここでは木の消臭や抗菌という素材の持ち得る力を、人とのコミュニケーションのメディア(媒体)としているところに柔らかな魅力を感じます。(米本)

世界の流れに抗う 表現のために

―続「シャルリーエブド襲撃事件を考える」座談会

2015年1月7日に起きたパリの風刺週刊紙シャルリーエブド襲撃事件。京都精華大学は、事件後すぐ緊急シンポジウム「シャルリーエブド襲撃事件を考える―表現の自由とテロリズム」を開催。3人の教員が、風刺マンガ、フランスのポップカルチャー、イスラム文化というそれぞれの視点から背景を分析し、事件が投げかけた問題を話し合いました。そして2カ月後、同じ顔ぶれで「延長戦」となる座談会を行ったのが、このレポートです。

事件の本質は「ローカル」

山田 先日のシンポジウムでお三方に共通していたのは、「シャルリーエブドは本当に表現の自由の象徴なのか」という疑問と、「世界の大きな流れのなかで起きた事件である」という認識だったと思いますが、その後の状況をどう見ておられますか。
サコ 事件以降、世界が新たな戦争と言っているかわからないけど、戦いはじまった気がします。ヨルダンやチュニジアのテロ、私の祖国マリでもパリとほぼ同じ形の事件があった。以前は身を隠して行動していたテロリストが、最近では堂々と「顔」をさらし、世界へ向けて声明を出す。しかも一連の事件の犯人たちは、み



イスラム教に限らず、あらゆる宗教や政治に対して風刺の効いた挿絵を掲載してきた「シャルリーエブド」紙。事件後、フランス各地で表現の自由や反テロを訴える集会が行われ、「Je suis Charlie (私はシャルリー)」というスローガンが掲げられた。

シャルリーエブド事件の顛末

- 1月7日(水)
 - 事件発生。編集長や風刺マンガ家ら12人が殺害される
 - フランス人ジャーナリストが「Je suis Charlie」(私はシャルリー)と書かれた画像ファイルを投稿
 - オランド大統領が事件現場に駆けつけ、「襲撃を受けたのはフランス共和国全体である。われわれの最大の武器は団結だ」と演説
- 1月8日(木)
 - フランス全土で正午に1分間の黙祷
 - 「Je suis Charlie」がツイッターなどを通じて世界に広まる
- 1月9日(金)
 - オランド大統領がテレビ演説。「民主主義や自由の価値を掲げるため、すべてのフランス人に集まってほしい」
 - 容疑者射殺
- 1月11日(日)
 - パリだけで160万人超、フランス全土で370万人がデモ行進。EU諸国をはじめ、マリやイスラエルなど40人超の各国首脳が行進に参加



安田昌弘
ポピュラーカルチャー学部音楽コース教員。2008年までパリに在住。現在は関西、とくに京都の音楽シーンについてフィールドワークや仏における日本のポピュラーカルチャー受容の研究を行っている。

んな地元人間なんですよ。イスラム教というのは本来、世界各地の文化と融合し、地域ごとに多様な形態があった。つまり一括りにできないものだったのに、過激な原理主義者たちは「それはイスラムではない」と否定する。ある意味、イスラムのグローバル化ですよ。その一方で市場原理主義、お金を唯一の価値とする経済のグローバル化があつて、これを押さえ込もうとする。シャルリーなんて、本来はフランス政府から見れば敵です。それすら取り込んで「われわれの敵か味方か」という構図が作られてしまった。

山田 表現の自由という一見普遍的な価値観も国によって違う、と。
篠原 そう。日本のようにクレームを過剰に恐れ、あらゆる方面に配慮する社会でもっとも怖いのは、だれも発言や表現をしなくなることでしょ。実際、日本漫画家協会はこの件で何も発信しなかったし、僕は授業のなかで、シャルリー事件をテーマにした作品をFECO(カートゥニストの国際団体)に送るから出してみたいなかと40人ほどの学生に呼びかけたけど、たったひとりしか出してこなかった。涙ながらに訴えたのにな(笑)。

に星条旗がはためいていて、それに対してイスラム過激派あたりが暴力で別の価値観を主張するというイメージでしたけど、最近のテロは構図が違う。それぞれの国で社会的に疎外された人たちが不満をぶつけるために、それぞれの地元で事を起こす。いわば、世界中の複数のローカルが、グローバルを通さずにつながっているんだけど、メディアは相変わらず世界を2つに割って見ることしかできていません。

な自由が経済的自由に取って代わられる」と言いますが、まさにそんな状況です。そこで、あらためて表現の問題を考えたいんですが。
サコ 先日、サンフランシスコのミッション地区へ行っただけです。もともとはメキシコ人たちが住む貧しい地区で、ストリートには、子どもたちに民族のルーツや生き方を説く壁画が描かれていた。ところが最近、金融やITビジネスで成功した人たちが入ってきて、彼らが追い出されつつある。そうすると壁画のメッセージも変わって、「道路はいらぬ。公園を守れ」「もう土地を売るな」といった内容になってるんですよ。グローバル経済やその恩恵を受けた人たちの反発や不満を表すツール、いわば被害者側の武器として壁画という表現がある。それを見たとき、われわれのもっている表現という武器をどう使うか、学生にどう使わせるのか、改めて考えましたね。

安田 そうですね。本来は反体制的な、権力と闘うメディアだったのが、事件後はねじれが生じている。国民も「表現の自由を守れ」とシャルリーを擁護すればするほど、新自由主義や経済のグローバル化を後押しすることになってしまう、というね。
篠原 シャルリーの過激な表現について、ある新聞記者と話しましてね。たとえば、福島原発事故の風刺で障がいをもった力士を描くのも、フランス人の感覚ではオーケーやと彼は言う。「ああいう表現も認めたいうえで成立している社会だから、原発の危険性を訴えるには、あれぐらい普通通らう」と。難しいなあと思いついてね。フランスにはフランスの表現があるというのわかる。でも僕はあんな表現は避けるし、その記者も「日本ではまず無理」と言ってます

した。
山田 シンポでも言いましたけど、今は世界を二分して、どっちを選ぶのかという構図になってますよね。70〜80年代まではテロといえは、グローバル経済があつて、その背後

に星条旗がはためいていて、それに対してイスラム過激派あたりが暴力で別の価値観を主張するというイメージでしたけど、最近のテロは構図が違う。それぞれの国で社会的に疎外された人たちが不満をぶつけるために、それぞれの地元で事を起こす。いわば、世界中の複数のローカルが、グローバルを通さずにつながっているんだけど、メディアは相変わらず世界を2つに割って見ることしかできていません。

に星条旗がはためいていて、それに対してイスラム過激派あたりが暴力で別の価値観を主張するというイメージでしたけど、最近のテロは構図が違う。それぞれの国で社会的に疎外された人たちが不満をぶつけるために、それぞれの地元で事を起こす。いわば、世界中の複数のローカルが、グローバルを通さずにつながっているんだけど、メディアは相変わらず世界を2つに割って見ることしかできていません。

な自由が経済的自由に取って代わられる」と言いますが、まさにそんな状況です。そこで、あらためて表現の問題を考えたいんですが。
サコ 先日、サンフランシスコのミッション地区へ行っただけです。もともとはメキシコ人たちが住む貧しい地区で、ストリートには、子どもたちに民族のルーツや生き方を説く壁画が描かれていた。ところが最近、金融やITビジネスで成功した人たちが入ってきて、彼らが追い出されつつある。そうすると壁画のメッセージも変わって、「道路はいらぬ。公園を守れ」「もう土地を売るな」といった内容になってるんですよ。グローバル経済やその恩恵を受けた人たちの反発や不満を表すツール、いわば被害者側の武器として壁画という表現がある。それを見たとき、われわれのもっている表現という武器をどう使うか、学生にどう使わせるのか、改めて考えましたね。

【出演】 ウスビ・サコ

【進行】 山田創平

専門は社会学(芸術と地域、マイノリティと地域、都市空間論)。厚生労働省所管の研究機関や民間のシンクタンク勤務を経て現職。近年は国内外のアー

篠原ユキオ

マンガ学部カートゥーンコース教員。産経新聞や朝日新聞をはじめ、大手新聞各紙や週刊誌に、風刺や社会批評を交えた時事漫画やユーモアイラストを執筆。FECO JAPAN(世界漫画家連盟日本支部)会長。

人文学部長。アフリカ・マリ出身のイスラム教徒。専門分野は居住空間、建築文化、コミュニティを相対的にとらえる空間人類学。著書に『知のトリテラシー・文化』(ナカニシヤ出版、2007年)。



2014年度 卒業・修了制作展と セイカウィーク2015を開催

2015年2月18日～2月22日、京都市美術館・京都国際マンガミュージアムにおいて「2014年度 卒業・修了制作展」を開催しました。芸術・デザイン・マンガ学部、大学院芸術研究科・デザイン研究科のおよそ600名が学びの成果を発表するとともに、作品の公開プレゼンテーションやパフォーマンスを展開。ほかに、マンガ家や原作者として活躍する卒業生のゲストトークなど、多彩なプログラムで来場者を迎えました。

京都市美術館では、芸術学部・デザイン学部、そして芸術研究科とデザイン研究科が作品を展示。5日間で6500名が来場しました。オリジナルのテーマと習熟したテクニックをあわせもつ作品が目立った芸術学部。一方デザイン学部は学科ごとにこだわった展示手法で展開し、作品のクオリティはもちろん、培った提案力と展示力の高さを印象づけました。

京都市美術館別館では、大学院2年生の修了制作展と1年生の研究制作展が同時開催されました。同じ会場での合同展示ははじめての試みでしたが、大学院1年次の調査・研究、試行錯誤する段階から2年次修了にいたるまでの成長を感じることができ、大きな機会となりました。

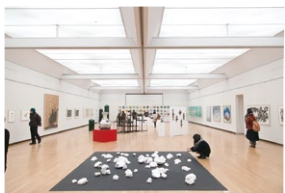
大学院には各国からの留学生が在籍しており、生まれ育った国の自然や文化の影響を読み取ることで、多様な美意識や手法を比較する楽しみを見出すことができます。今年も留学生の作品は完成度が高く、来場者には強い印象を与えたようです。

マンガ学部とマンガ研究科の作品が展示された京都国際マンガミュージアムには、約1万名が来場しました。ストーリーマンガコースは、作品の原画やカラーイラストを展示。アニメーションコースは映像ホールにて優秀作品上映会を実施しました。ほかにも会場では、『神さまの言うとおり』の原作を手がける金城宗幸

氏ら卒業生ゲストを毎日招き、その模様をUSTREAMでライブ配信。全世界に京都精華大学の魅力を伝える試みとなりました。

また、卒業・修了制作展の開催にあわせ、「セイカウィーク2015」を実施。4年目となる今年は、京都市内にあるCOON KARASUMAのサテライトスペース「KaraS」において人文学部の卒業制作展「ジンプンガクの現場」と芸術学部・デザイン学部の学生有志による作品販売「せいかのおみせ」を開催。そのほか、京都シネマで企画された映像コース主催の映画祭や元・立誠小学校で行われた立体造形コース3年生の進級制作展など、多数の展示・イベントを開催し、京都の街をにぎわせました。

展示作品や研究成果はすべて、ゼ口から思考と試行を重ねてかたちにした。卒業・修了制作展は、そのすばらしさを改めて教えてくれるとともに、学生たちの成長を感じさせてくれます。確かな答えがないものを追求し、表現してきた経験は、大きな糧となり、卒業後も自信をもってそれぞれの道を進んでいけることでしょう。



的な視点ももてるか。それがないと、表面だけ理解して、いろんなものに扇動されるだけになってしまします。篠原 シャルリー事件のあと、あるニュース情報番組の取材を受けたんです。風刺マンガや大学での授業内容についてみっちり取材された。それが、いざ放送当日になったら、東京のコンビニで商品につまようじを混入させた少年が捕まったとかで、僕のVTRは大分カット。ひと言出ただけ。それで腹立って、「つまようじはペンより強かった」という1コママンガを描いてツイッターに上げたら、すごく反応がよかった(笑)。

サコ 結局、難しく考えなくてもみんながすぐわかるようなものが市場原理にかなう、この場合は視聴率を取れるんですね。だから、新自由主義的な考えに私は反対するんです。安田 僕は新自由主義がすべて悪いともじつは思っていない。だってお金好きだし(笑)。……というのは冗談としても、そんな紋切型に悪だと思わないんですよ。市場がグローバル化したから、アフリカやアジアの音楽がCDになって流通したり、恩恵もあつたわけで。そんなふうには毒が薬かわからない物事はいっぱいあるので、常に「どっちなんだろう？」と迷いながら生きていっていかないといいかな。

サコ でもね、市場原理や新自由主義というのは、あらゆる物事を非常に単純な、記号化した価値に置き換

えてしまう。要するに金です。絵を描いたら「それはいくらになる」、文章を書けば「これは100万部売れるか」と。対話したり、考えを深めたりする間もなく、貨幣価値だけでわかったような気にさせる。そのうち人間も「この人はいくらもの価値がある人か」で判断されますよ。本当にそれでいいのかな。

大学にも及ぶ市場化の波

山田 そういう波が広がり、今や大学にも及んでいます。先般、文部科学省の有識者会議で経営コンサルタンの富山和彦氏が「G型大学」と「L型大学」というのを提案しましたね。一部の旧帝大をグローバル人材を育てるG型と位置づけてエリート教育をするけども、その他の大半はローカルなL型として、職業訓練校にするというものです。シエイクスピアを読むのではなく英会話を、経済学ではなく会計ソフトの使い方を……みたいな内容を文科省も検討している。こうしたとき、京都精華大学はどこへ向かうべきでしょうか。

サコ 今は学生も消費者になってしまっている。そこをわれわれがいかに豊かな教養なり、自分を発見することを教えていけるか。大学で過ごす時間というのは非常に重要で、自分を見つめ直し、自分だけのものの見方や価値観を確立していく時期です。そうでなければ、ただ周囲に流されて、時期がきたら就職活動して

というだけで終わってしまう。お金だけで計られるのではない彼らの価値を作っていく。これはある意味、学生との闘いだと思えますよ。

篠原 僕も学生に時々言うのは「きほん夢は語るけど、それに向かってほんまに努力してる人はどれだけおる？」って。口だけカッコええこと言うても、結局何もせず、流れに乗せられてだけじゃアカンからね。

安田 芸術や学問というのは、経済的なロジックに抗うことで経済的な価値を獲得するという矛盾した世界なわけです。お金のことを考えず美を追求した作品が評価され、値段が上がる。そういうことを全部すっ飛ばして、国の生産力を上げるためには、職業訓練をすればいいというのでは、経済は回るかもしれないけど、おもしろいアイデアや見たこともない表現が出てくる土壌を狭めるだけだと思う。砂漠ですよ。で、そういう国は結局、競争力を失って没落していくと思うんですけどね。

精華は人間をあきらめない

山田 アメリカなんかはそれに気づいて、公立大学を無償化する方向なんですよね。日本は一周遅れです。きれいに芽を摘んでおいて、「ジョブズのような人材が出てこない」とか言ってる(笑)。ただ、精華はまだみなさんが言うような教育ができる土壌があると思うんですけども。

安田 こんな人が人文学部長をやっ

てますからね(笑)。

サコ もちろんまだまだ可能性はありますよ。海外留学のプログラムにしても、他の大学はテロが怖いからと中止にしたり、行かせても寮と学校の往復だけだったりするらしい。けど、精華はもっと現地を見て、人と交流して、その国の文化を広く学べるようにしてほしいと提携先には言ってるんです。「そんな日本の大学ないよ」って驚かれますけど、日本のなかに閉じこもって、この世界の現実がわかるはずない。

安田 学生を外に向けて開いていくカリキュラムが必要ってことです。僕はゼミ旅行でも、テレビやガイドブックには出ていない場所や店を、なるべく学生たちに体験させている。画面や誌面から得た平面的な情報を追っただけじゃなく、立体的に感じてほしいので。

山田 先日のシンポにしても、他の大学では同様の企画がもたらがっても上から潰されたそうです。「イスラムやテロなんかテーマにして、もし何かあったらどうするんだ」って。そういう危惧を抱かずにやってしまるところが精華らしいというかな。

篠原 で、終わってからは「なんかあつてもおかしくなかったな」という(笑)。いや、何もなかったけど。

サコ そういって大学を選んでくること自体、学生には可能性があるってこと。精華はまだまだ人間をあきらめない大学、ということですよな。

「デジタルマンガ キャンパス・マッチ2014」でキャラクターデザインコース2年生の作品が協賛社賞を受賞

大学や専門学校など71校が参加し、1,350作品の応募があった「デジタルマンガ キャンパス・マッチ2014」。本学ではマンガ学部キャラクターデザインコース2年生、齋藤奈々海さんの作品「りりん&ムー」が「子どもがコミュニケーションしたくなるハートフル・キャラクター」というテーマで協賛社賞（イラスト・キャラクター部門／DNP）を受賞しました。



ギャグマンガコース在学生の作品が情報発信サイト「マイナビ 学生の窓口」で連載開始

マンガ学部ギャグマンガコース2年生のフクマイさんの作品「思考回路有象無象」、3年生の辺 音夢さんの作品「4コマうえんずでい」、古浦ひのでさんの作品「まにまに」（いずれもペンネーム）の作品が、大学生を対象にした情報発信サイト「マイナビ学生の窓口」で連載を開始しました。



NEWS & Topics

大学ニュース

在学生や卒業生の活躍、大学の取り組みなど、京都精華大学の最新情報を紹介します。

カートゥーンマンガ専門分野卒業生が「ほぼ日刊イトイ新聞」で連載中

芸術学部カートゥーンマンガ専門分野（現・マンガ学部カートゥーンコース）卒業生の早川乃梨子さんがWebサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」で「早川乃梨子のオノマトペイント」



©ほぼ日刊イトイ新聞

を連載中です。早川さんは、いろんな音や状態を文字で表すオノマトペを使って、ユーモアのある一コマの絵作品をシリーズで発表しています。

第7回沖縄国際映画祭「クリエイターズ・ファクトリー」でアニメーションコース卒業生の作品が最優秀賞を受賞

マンガ学部アニメーションコース卒業生、本吉聡子さん監督の作品『傷人形』が、第7回沖縄国際映画祭「クリエイターズ・ファクトリー」において最優秀賞を受賞しました。受賞にあたって選考委員から、「作り手としての冷静な目線を感じ、すごい作り手だと思い、次の作品を観たいと思いました」といった評価を受けました。



テキスタイルコース3年生がドイツのテキスタイルフェアに出展

芸術学部テキスタイルコース3年生の西村 梓さんがドイツ・フランクフルトで行われたヨーロッパ最大のインテリアテキスタイルフェア「Heimtextil (ハイムテキスタイル) 2015」に出展。交換留学制度を利用し、フィンランドのトゥルクアーツアカデミーに留学していた西村さんは、同大学で学ぶ学生たちとともに「DOZEN+1」というテキスタイルブランドを立ち上げ、活動しました。



人文学部4年生がNHK Eテレ「シャキーン！」のうたを担当

人文学部4年生の中村佳穂さんが、NHK Eテレの子ども向けテレビ番組「シャキーン！」内のコーナー「みんなでうたおう」にて5月11日から楽曲名「72億人分のあの人」のうたを担当しています。また6月には、くりり主催の「京都音楽博覧会」のプレイベントで、くりりとの共演が決定しており、今後の活躍が期待されています。



ストーリーマンガコース卒業生が京都府との連携で「看取り」をテーマにしたマンガ冊子を制作

マンガ学部ストーリーマンガコース卒業生の濱田咲乃さん、濱田彩乃さんが制作を担当した、京都府との連携による「看取り」をテーマにしたマンガ冊子『生きる—最期まで、自分らしく—』が完成しました。冊子は、京都地域包括ケア推進機構、京都府庁、京都府保健所、京都市内各区役所・支所などの公的機関の窓口で配布されるほか、京都地域包括ケア推進機構のWebサイトでも閲覧可能です。



音楽コース2年生の所属バンドが「十代白書2015」で準グランプリを受賞

「KYOTO MUSE」など関西のライブハウス6店がプロデュースを行い、音楽活動を行う若き10代の才能を発掘するプロジェクト「十代白書2015」において、ポピュラーカルチャー学部音楽コース2年生の幸 里紗子 (Vo/Gt) さんが所属するバンド「空中メトロ」が準グランプリを受賞しました。オーディエンス投票やライブパフォーマンスなど多方面から審査が行われたなかでの受賞となります。



「第21回 松伯美術館 花鳥画展」で大学院芸術研究科修士課程修了生が大賞を受賞

「第21回 松伯美術館 花鳥画展」において、大学院芸術研究科修士前期課程修了生、前川祥子さんが作品「煌々」とで大賞を受賞、同研究科修士前期課程修了生、小杉侑未さんが作品「蒼日」で優秀賞を受賞しました。また、大学院芸術研究科を修了した、及川美沙さん、上裕一平さん、田中翔子さん、西川恵子さんが入選しました。



プロダクトコミュニケーションデザインコース 卒業生が「グッドデザイン賞」を受賞

デザイン学部プロダクトコミュニケーションデザインコース（現・プロダクトコミュニケーションコース）の卒業生、福田真優さんがデザインした工具「ネジザウルスRX」が「2014年度グッドデザイン賞」を受賞しました。同製品は福田さんが所属する株式会社エンジニアが製作するペンチ「ネジザウルス」シリーズの新商品で、その先端形状をはじめ、細部にわたる工夫が高く評価されました。





に、本格的な
楠の木を材料
する陶芸講座
窯を使い、世
界にひとつし
かない器を作
る陶芸講座。

彫刻に挑戦する立体造形講座。画コ
ンテの描き方から撮影・編集の技術
まで、映像制作の基礎を学ぶ映像講
座などを実施し、いずれのプログラ
ムでも好評を得ました。
5日間のプログラムは、専門技法
に関する講義や道具・材料の基本的
な説明を受けたうえで、各工程の作
業を自分の手でを行い、作品を完成さ
せて、参加者全員の作品の講評をお
こなします。そして、すべての日程
を終えた方には修了証を交付します。
2015年度は、日本画絵具を使
って草花や野菜などを写生する「日
本画講座」、日本の伝統的な技法で
ある型染めを使って帯やタペストリ
ーを作る「テキスタイル講座」、口
クロ・絵付け・窯入れといった本格
的な工程でうつわ作りに挑戦する
「陶芸講座」、秋のお月見にむけて、
漆やガラスなどの技法を用いて4種
の菓子用器を制作する「アートアク
セサリー講座」の4講座を開催しま
す。この夏、京都精華大学で有意義
な時間を過ごされたいかがでしょ
うか。

今までに実施した講座では、一般
には馴染みのない岩絵の具などを使
い、写生や彩色をする日本画講座。
伝統技法であ
る「型染め」
を体験するテ
キスタイル講
座。ロクロや
窯を使い、世
界にひとつし
かない器を作
る陶芸講座。

京都精華大学芸術学部では、毎年夏休
みに大学の豊富な工房・施設を利用し
て、芸術や工芸の作品作りを体験で
きるプログラムを全学部の学生に対
して開講し、学部を超えた学びや発
見の場を提供しています。「サマー
スクール」と名づけられたこの授業
は、本学が地域社会の一員としての
役割を担うという思いから、一般の
方にも参加いただいております。いま
まで多くの方々が、学生と一緒に芸
や工芸の楽しさにふれてきました。

イベント紹介 サマースクール

京都精華大学芸術学部が開催する、夏の風物詩「サマースクール」。
一般にも公開し、学生たちと一緒に芸術・工芸を学ぶこの講座を紹介します。

2015年度新任教職員および2014年度退職教職員のお知らせ

2015年度新任教職員

人文学部	芸術学部	デザイン学部	マンガ学部
佐々木 中 文学専攻	内田 樹 客員教員	谷川 渥 客員教員	小野 明 イラストコース
西野厚志 文学専攻	養老孟司 客員教員	リ・ウーファン 李 禹 煥 客員教員	福田哲夫 客員教員
齊藤紘子 歴史専攻		角田 純 イラストコース	藤本壮介 客員教員
白井 聡 社会専攻		小山格平 プロダクトコミュニケーションコース	アッパス・ヤスミン 客員教員
磯辺ゆかり 学部共通		行徳達之 プロダクトコミュニケーションコース	
佐々木美緒 学部共通		石川九楊 客員教員	
			田中圭一 ギャグマンガコース
			ときまつさなえ キャラクターデザインコース
			坂本拓馬 アニメーションコース
			事務局
			北脇 学 国際教育部

2015年度名誉教授授与

遠藤育枝 楠瀬佳子 中平佳男 井上斌策

2014年度退職教職員

人文学部	芸術学部	デザイン学部	マンガ学部	キャリアデザインセンター
遠藤育枝 楠瀬佳子 竹島昭雄 野口勝三 森下育彦 李 鳳宇 客員教員	中平佳男 学部共通 酒井忠康 客員教員	井上斌策 プロダクトコミュニケーションコース 野口和裕 プロダクトコミュニケーションコース 吉田治英 客員教員 ピーター・クック 客員教員 山本理顕 客員教員	菅谷多津 ストーリーマンガコース 岩見吉朗 マンガプロデュースコース 竹熊健太郎 ギャグマンガコース 石堂吉彌 アニメーションコース	川端平気 ひでつう 事務局 上々手良夫 鈴木ちよ 花谷 薫

2015年度大学人事体制

理事長 赤坂 博	理事 安村幸駿	監事 堂山道生	人文学部 中 昌浩
学長 竹宮恵子	理事 高瀬 哲	人文学部長 ウスビ・サコ	芸術部 相内啓司
専務理事・常務理事(経営企画担当) 石田 涼	理事 納谷廣美	芸術学部長 島本 洸	デザイン部 葉山 勉
副学長・常務理事(教学担当) 吉村和真	理事 櫻井謙次	デザイン学部長 佐藤守弘	大学院マンガ部 篠原ユキオ
副学長・常務理事(教育企画担当) 武田恵司	監事 崎間昌一郎	マンガ学部長 姜 竣	京都国際マンガミュージアム館長 養老孟司
常務理事(総務担当) 高橋 勇	監事 位ノ花俊明	ポピュラーカルチャー学部長 齋藤 光	

2015年度在学学生数(2015年5月現在)

芸術学部——767 デザイン学部——791 マンガ学部——940 ポピュラーカルチャー学部——214 人文学部——607 大学院——106

○京都精華大学が主催するイベント を紹介。一般の方も聴講、参加が 可能です。 『京都の伝統美術・工芸に関する研 究者や作家、職人、デザイナーなど、 毎回異なる分野の講師が、各々の 専門テーマで講演を行う。』 【日時】 2016年7月16日(木)全14回 毎回木曜 13時~14時30分 【場所】 京都精華大学 黎明館1階L101 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL:075-702-5129	○京都精華大学が主催するイベント を紹介。一般の方も聴講、参加が 可能です。 『京都の伝統美術・工芸に関する研 究者や作家、職人、デザイナーなど、 毎回異なる分野の講師が、各々の 専門テーマで講演を行う。』 【日時】 2016年7月16日(木)全14回 毎回木曜 13時~14時30分 【場所】 京都精華大学 黎明館1階L101 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL:075-702-5129	【場所】 京都精華大学 春秋館2階S201 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL:075-702-5129	【場所】 京都精華大学 春秋館2階S201 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL:075-702-5129
デザイン学部建築学科 連続レクチャーシリーズ「可能性の空間 2015年度プログラム」 テーマ「京都・おもてなし雅び」 建築学科教員およびゲスト講師が 空間をめぐる対談や講演を行う。 【日時】 7月10日(金) 毎回全曜 18時~ 【場所】 京都精華大学 風光館3階F331 【問い合わせ先】 京都精華大学 デザイン学部 建築学科 Email:architect@yoko- seika.ac.jp	【場所】 京都精華大学 春秋館2階S201 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 デザイン教育担当 TEL:075-702-5129	【日時】 8月18日(火)~8月29日(土) ※日程はコースにより異なります。 【場所】 京都精華大学 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 TEL:075-702-5244 ※6月20日(土)までに事前申し込 み要。受講料1万円。詳細は本学 Webサイトまたは教務課まで。	【日時】 8月18日(火)~8月29日(土) ※日程はコースにより異なります。 【場所】 京都精華大学 【問い合わせ先】 京都精華大学 教務課 TEL:075-702-5244 ※6月20日(土)までに事前申し込 み要。受講料1万円。詳細は本学 Webサイトまたは教務課まで。
石川九楊連続「公開講座」日本論 石川九楊(デザイナー)学部客員教員 による連続公開講座。 【日時】 6月15日(月)、10月12日(月)、 11月16日(月)、12月14日(月) 13時~14時30分	【日時】 6月15日(月)、10月12日(月)、 11月16日(月)、12月14日(月) 13時~14時30分	【日時】 6月15日(月)、10月12日(月)、 11月16日(月)、12月14日(月) 13時~14時30分	【日時】 6月15日(月)、10月12日(月)、 11月16日(月)、12月14日(月) 13時~14時30分
アセンブリアワー講演会 岸田 繁「くるり解体新書3」 くるりの曲はどうやってできるの か? ロックバンドくるりのボカ ル、ギターである岸田繁氏が語る。 【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343	【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343	【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343	【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343
アセンブリアワー講演会 牧村朝子「LGBTのボーダライン」 女性として生まれ、最愛の妻と結 婚した牧村氏。自身の経験と、セ	【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343	【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343	【日時】 6月27日(土) 14時40分~16時10分 【場所】京都精華大学 友愛館 Agora 【問い合わせ先】 京都精華大学 社会連携センター TEL:075-702-5343
オープンキャンパス 授業見学会 高校生や保護者に向けて、授業の 体験講座や入試説明会、教員との 面談などを実施。 【日時】 オープンキャンパス 6月7日(日)、8月1日(土)、9日(日)、 9月20日(日)各日10時~16時 授業見学会 7月20日(月)祝 13時~16時 【場所】 京都精華大学 【問い合わせ先】 京都精華大学 入試課 TEL:0120-075017	【日時】 6月7日(日)、8月1日(土)、9日(日)、 9月20日(日)各日10時~16時 授業見学会 7月20日(月)祝 13時~16時 【場所】 京都精華大学 【問い合わせ先】 京都精華大学 入試課 TEL:0120-075017	【日時】 6月7日(日)、8月1日(土)、9日(日)、 9月20日(日)各日10時~16時 授業見学会 7月20日(月)祝 13時~16時 【場所】 京都精華大学 【問い合わせ先】 京都精華大学 入試課 TEL:0120-075017	【日時】 6月7日(日)、8月1日(土)、9日(日)、 9月20日(日)各日10時~16時 授業見学会 7月20日(月)祝 13時~16時 【場所】 京都精華大学 【問い合わせ先】 京都精華大学 入試課 TEL:0120-075017

毎年、さまざまなクリエイターが生まれ、飛び立っていく京都精華大学。社会の第一線で活躍する卒業生と、その場所へ歩んでいる在学生を紹介します。

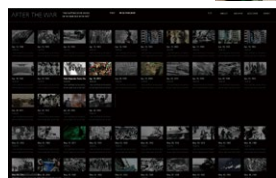
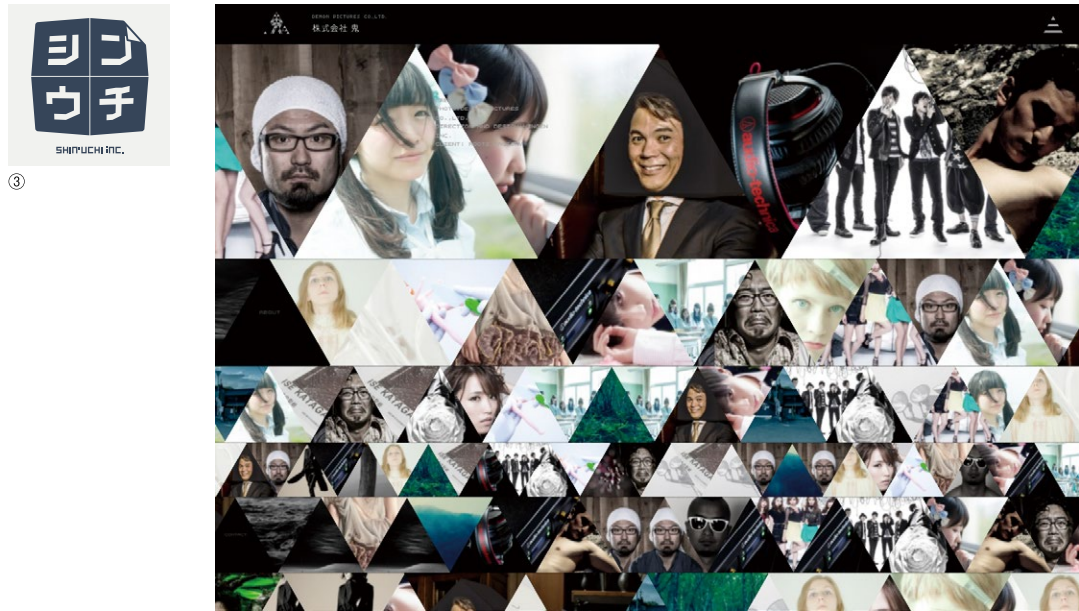


三上航人

株式会社シンウチCEO
デザイン学部デジタルクリエイションコース 4年生

歩みはじめた在学生

2年生の秋に、なんと会社を立ち上げた三上くん。歩みはじめたばかりの真っ直ぐな思いをうかがいました。



①Webや動画の制作を手がける「株式会社鬼」のCG制作やサイト構築を担当。②戦争や非人道的な行為の抑止を目的にした映像のアーカイブサイト「AFTER THE WAR」の実装を手がけた。③社名は落語の「真打ち登場」から。京都市左京区に事務所を構える。

—どんな会社ですか？
企業のWebサイトの構築や、コンテンツ制作です。3DCGや映像の制作など技術をもった同じコースの友人3人に仕事を発注しています。僕の仕事はコーディングとマネージメント。それに経理です。

—起業のきっかけは？
高校のときからプログラミングを学ぶのが趣味で、わりと早くから仕事をしてきたんです。けど、ハードな仕事のわりに報酬が低い。エンジニアはまだマシですが、デザインに対する世間の評価は本当に低いと思う。だから、クリエイティブに対する社会の認識を変えていきたいと思っただけです。その問題意識を共有できる仲間に精華で出会えたことが、起業のきっかけです。

—起業してみてもいいですか？
法人化して信頼してもらいやすくなり、報酬も上がりました。今は、熱中できることが見つかって最高の気分です。

—憧れの人はいますか？
人よりも、その人の手法や技術に目がいくタイプです。エンジニアですから新しい技術に触れ続けることが好きなんです。

連絡先
info@shinuchi.com



長砂賀洋

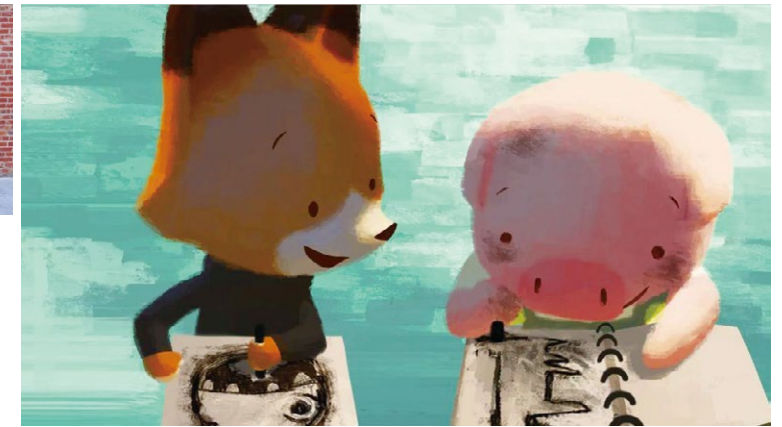
ペインター
芸術学部テキスタイルデザイン分野 2009年卒業

活躍する卒業生

頭のなかにあるイメージを描くペインターの長砂さんは、思うままに日本を飛び出し、新たなフィールドを獲得しました。



長砂さんが主要メンバーとして制作に携わったのが、短編アニメーション映画『ダム・キーパー』（堤大介、ロバート・コンドウ共同監督）。2015年アメリカアカデミー賞短編アニメーション部門にノミネートされるなど受賞多数。



大学卒業後にボランティアとしてアニメの制作に関わりはじめた長砂さんは、ほどなく東京のアニメ制作会社に就職します。しかし3年後、だれもが知るアメリカの映像制作会社「ピクサー・アニメーション・スタジオ」で、『トイ・ストーリー3』などのアートディレクターを務めた憧れの堤大介さんを訪ねるべく、会社を辞めて無謀にも渡米。半年間、語学学校に通う日々を経て、なんと堤大介さんの自主制作アニメーション作品のスタッフに起用されます。「プロの現場では通用しないレベルでしたが、日本から来たというやる気を買ってくれた」。制作作業をともした約10カ月間は、「今までの人生で一番楽しかった時間」と長砂さんは語ります。そこで作画の技術はもちろん、アーティストとしての姿勢など多くを学んだそうです。

2014年からは日本に戻り、フリーランスのペインターとして活動する傍ら、自分の作品制作も。「いつか堤さんたちとまた仕事したい」と、切磋琢磨の日々を送っています。



作業場

壁に飾っている大きなポスターは、『モンスターズ・ユニバーシティ』の制作で使っていたものをアートディレクターの堤さんにいただきました。



マイブーム

フランスの漫画『かわい闇』は最近読んで一番おもしろかった本です。こういった、かわいいけれど、どこか闇を感じる物語を作れたらと思います。



生計

フリーランスの仕事は、アニメやゲームの背景画、コンセプトアート、ミュージックビデオの素材作りなどです。作業はすべてPhotoshopです。



気分転換

気分転換に料理をすることが多いです。サラダはシンプルな味付けが一番おいしいですね。

連絡先
umjammercybo-jsk@hotmail.co.jp ※お仕事に関するご依頼は希望に添えないかもしれませんが、質問には必ず答えます！

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当
TEL 075-702-5201 FAX /075-702-5391
E-mail:kikaku@kyoto-seika.ac.jp

卒業生の方へ

●京都精華大学の情報は Facebook でも

お知らせしています。

www.facebook.com/KyotoSeikaUniversity

●「木野通信」送付先住所の変更は、

企画室・木野会事務局までご連絡ください。

E-mail:kinokai@kyoto-seika.ac.jp

FAX:075-702-5391

京都精華大学 学部・学科・コース

人文学部	[総合人文学科] 文学専攻 歴史専攻 社会専攻
ポピュラー カルチャー学部	[ポピュラーカルチャー学科] 音楽コース ファッションコース
芸術学部	[造形学科] 洋画コース 日本画コース 立体造形コース [素材表現学科] 陶芸コース テキスタイルコース [メディア造形学科] 版画コース 映像コース
デザイン学部	[イラスト学科] イラストコース [ビジュアルデザイン学科] グラフィックデザインコース デジタルクリエイションコース [プロダクトデザイン学科] プロダクトコミュニケーションコース ライフクリエイションコース [建築学科] 建築コース
マンガ学部	[マンガ学科] カートゥーンコース ストーリーマンガコース マンガプロデュースコース ギャグマンガコース キャラクターデザインコース [アニメーション学科] アニメーションコース

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第64号
2015年5月20日 発行

京都精華大学 入試広報部 広報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp